

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	岩手県	市町村名		大学名	
派遣日	令和4年11月22日(火曜日) 11:00~14:20 (添付資料参照)				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 ○派遣 / 遠隔				
派遣場所	岩手県立総合教育センター				
アドバイザー氏名	愛知県豊橋市教育委員会 築樋 博子 外国人生徒教育相談員				
相談者	岩手県教育委員会事務局学校教育室 義務教育担当 「令和4年度帰国外国人児童生徒等教育関係者研修会」				
相談内容	<p>外国人児童生徒等の人数や在籍校数が増加する中、「特別の教育課程」の編成・実施数が伸び悩んでいる本県では、外国人児童生徒等の資質・能力の着実な育成を図ることのできる継続的な体制の構築に困難を抱えている自治体も多い。</p> <p>「帰国・外国人児童生徒等教育関係者研修会」の開催は、今年度を含めて12回目となり、実施回数を重ねてきているものの、年1回(概ね11月)のみの開催であり、当該年度に初めて日本語指導に携わった教員が、学校において、計画的な指導計画の立案・修正のサイクルに結び付ける段階には至りにくいという課題がある。</p> <p>これまでの研修参加者の声や、各種調査等の結果などから、特に</p> <p>○DLA等言語能力測定ツールを使用した言語能力の捉え方と支援への接続(研修実施のためのチェックリスト F 言語と認知の発達)</p> <p>○日本語指導を必要とする児童生徒の適切な日本語指導の計画立案と実施に関して大切な視点について(研修実施のためのチェックリスト I 日本語指導の計画と実施)</p> <p>○児童生徒の認知特性に応じた学習活動の方針決定について、具体的な指導事例を基にした演習(研修実施のためのチェックリスト H 子どもの日本語教育の理論と方法、J 在籍学級での学習支援)</p> <p>について、研修内容として取り扱うことで、課題の改善に迫りたいと考え、これらのテーマに触れながらの講義・演習を依頼した。</p>				
派遣者からの指導助言内容	<p>講義・演習：これからの外国人児童生徒等教育の在り方を考える ～子どもたちの明るい未来のために～</p> <p>内容 1 「特別の教育課程」による日本語指導の概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業時間内に行う指導の様々な形態</li><li>・授業時数や指導場所、計画・実績の提出</li></ul> <p>2 「個別の指導計画」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・具体の様式と、かすたねっと掲載の参考資料とを紐づけながら確認</li></ul> <p>3 「具体的なコース設計と指導例」</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日本語指導が必要な児童生徒の多様性</li><li>・小学校2年生(生活適応、保護者への情報提供、サバイバル日本語)</li></ul>				

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 小学校6年生（日本語基礎、算数指導、技能別日本語）</li><li>・ 中学校2年生（読み書き困難への対応、日本語と教科の統合学習）</li><li>・ 「個別の指導計画」の評価</li></ul> <p>4 チーム学校としての体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 役割分担例や職員会議における提案例</li></ul> <p>5 「個別の指導計画」の見直しと作成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 事前課題として研修者が作成、持参した計画の見直し</li></ul> <p>特別の教育課程による日本語指導の制度の概要について、作成の意義を具体的な作成内容と併せて確認していただいたことで、各地域の指導主事と各学校の担当者とは、地域の実態に応じた連絡調整の在り方を検討しながら学ぶことができた。</p> <p>児童生徒の日本語の力を JSL 評価参照枠などを活用して判断し、指導目標の設定、計画を作成することについても、豊富な具体例をあげながら講義いただき、事前課題の支援計画を見直す視点を共有することができた。目標を設定することが、実際に作成する様式とどのようにつながっているかを丁寧に確認していただき、研修者は、学校や委員会に戻った後に、『外国人児童生徒受入れの手引き』等をもとに、関係者が連携して取り組みたいことをイメージできた様子であった。</p> <p>提示いただいた書籍や教材、参考資料等に興味を持って手に取る参加者も多く、講師の実際の指導場面や具体例による講義・演習から多くのことを学ぶことができた。</p>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>本研修を受けて以下の点について取り組んでいきたい。</p> <p>1 「帰国外国人児童生徒等教育関係者研修会」の継続的な開催及び内容の充実</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 日本語と教科の統合学習の充実のイメージをより明確にするための講義・演習機会の設定を行い、日本語基礎が不適切に長い期間設定されている状況の影響を理解してもらう場を設定する。</li><li>(2) 今年度、事前課題として支援計画を作成したが、演習を基に、アセスメントのタイミングをはさんで、計画が対象指導生徒の成長と共にアップデートされていくことの大切さを確認することができた。次年度の研修の際には、今年度の参加校が、どのように計画を活用し、且つ改善を行ったのかが確認できるような工夫が必要と考える。</li><li>(3) 令和5年度より高等学校における特別な教育課程による日本語指導の制度化されることを見通して、長い時間をかけて育成すべき日本語の力がどのように育成されてきたか、記録に残すことの意義を確認することができた。次年度研修でも取り扱いたい。</li><li>(4) 関係者の顔の見える連携体制構築の一助となるよう、地域ごとの協議の場を設定する。</li><li>(5) 大学や国際交流協会等との連携を促進する。</li></ul> <p>2 県の研究指定成果の県内への波及</p> <p>指定を行っている久慈市教育委員会から、今回の研修で、10月に2名が参加した中央研修での学びも含め、①指導計画の様式の作成、②小中学校連携、③校内体制</p>

(様式3)

	<p>の整備 について実践発表を行った。来年度は研究指定2年目として、今年度取り組んでいる地域内での研修会開催等の取組を、県内にモデルとして波及したい。</p> <p>3 特別の教育課程による日本語指導の意義の共有</p> <p>特別の教育課程による日本語指導の促進に向けて、「令和3年度日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」結果データ等を基に、行政の取り組むべきことを整理し、市町村教育委員会、各学校、関係機関等、全県で確認していく。</p>
--	---

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。